

めぐみイエス・キリスト教会

2020年11月1日(日)第一主日礼拝
週報「通算第530号」



2020年標題聖句

第Iテサロニケ5章16節～18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年11月1日 第一主日礼拝 午前10時
司会 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌258「墨よりも黒き心なれど」 p. 402

【交読文】 No.1詩篇第1篇 p. 879

【賛美Ⅱ】 新聖歌439「険しき山道か」 p. 710

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.13「主をほめたたえ続けよ」

【聖書朗読】 使徒の働き6章8節～15節(2017新約p. 243下段)

【礼拝説教】 《捕らえられたステパノ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所(使徒の働き6章8節～15節)

6:8 さて、ステパノは恵みと力に満ち、人々の間で大いなる不思議としるしを行っていた。

6:9 ところが、リベルテンと呼ばれる会堂に属する人々、クレネ人、アレクサンドリア人、またキリキアやアジアから来た人々が立ち上がって、ステパノと議論した。

6:10 しかし、彼が語る時の知恵と御霊に対抗することはできなかった。

6:11 そこで、彼らはある人たちをそそのかして、「私たちは、彼がモーセと神を冒瀆する言葉を語るのを聞いた」と言わせた。

6:12 また、民衆と長老たちと律法学者たちを扇動し、ステパノを襲って捕らえ、最高法院に引いて行った。

6:13 そして偽りの証人たちを立てて言わせた。「この人は、この聖なる所と律法に逆らう言葉を語るのをやめません。

6:14 『あのナザレ人イエスは、この聖なる所を壊し、モーセが私たちに伝えた慣習を変える』と彼が言うのを、私たちは聞きました。」

6:15 最高法院で席に着いていた人々が、みなステパノに目を注ぐと、彼の顔は御使いの顔のように見えた。

●ポイント1. ステパノの選出と十二使徒たちにおける按手礼とは？

※使徒の働き6章5節～6節「信仰と聖霊に満ちた人」(新約p.234上段)

この提案を一同はみな喜んで受け入れた。そして彼らは、信仰と聖霊に満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、そしてアンティオキアの改宗者ニコラオを選び、この人たちを使徒たちの前に立たせた。使徒たちは祈って、彼らの上に手を置いた。

●ポイント2. 「リベルテンと呼ばれる会堂」とは？そこに集う人々とは？

リベルテンとは、ラテン語リベルティノスからきた言葉で、「自由を得た者」という意味である。紀元前63年ローマのポンペイウス将軍がユダヤを征服した時に捕らえられ、ローマに連行され奴隷となった人々で、彼らのうちのある者は解放されてユダヤに戻り、エルサレムに自分たちの会堂を造った。彼らはギリシャ語を用い、同じくギリシャ語を話すクレネやアレキサンドリヤから来たヘレニストのユダヤ人たちが、共に集まっていた。

●ポイント3. 「御使いの顔のように見えた」こととは？

※出エジプト記34章29節～35節「モーセの場合」(旧約p.163下段最初)

※マルコの福音書13章9節～11節「主イエス様の約束」(新約p.95下段)

13:9「あなたがたは用心していなさい。人々はあなたがたを地方法院に引き渡します。あなたがたは、会堂で打ちたたかれ、私のために、総督たちや王たちの前に立たされます。そのようにして彼らに証しするのです。

13:10 まず福音が、すべての民族に宣べ伝えられなければなりません。

13:11 人々があなたがたを捕らえて引き渡すとき、何を話そうかと、前もって心配するのはやめなさい。ただ、そのときあなたがたに与えられることを話さなさい。話すのはあなたがたではなく、聖霊です。」

◎先週のメッセージの概要【七人の執事の選出】

《その頃とは、紀元34年から35年頃です。弟子の数は、かなり増え、もはや、十二使徒だけでは手が回らなくなって来ていました。当然問題が起こって来ます。なぜなら教会は、罪赦された罪人の群れだからです。

さてエルサレム教会に問題が起き、しかもその問題が十二使徒に提起されました。それは、外国生まれで外国育ちのユダヤ人たち(ヘレニスト)が、生粋のユダヤ人たち(ヘブライスト)に対して苦情を申し出たのです。彼らのうちのやもめたちが、毎日の配給においてなおざりにされていたからです。実は弟子たちの中には、二つの群れがありました。パレスチナで生まれ育った生粋のユダヤ人の弟子。そして聖霊降臨日に、集まって来て、ペテロの説教によって救われた三千人のギリシャ系ユダヤ人の弟子です。特に彼らは、年を取りますと、聖地エルサレムのひざもとに葬られたいと願う人が多く、祖国に戻って来る人がかなりおりました。そうして、エルサレムに取り残されたやもめたちもまたかなりいたのです。

さて、十二使徒は主に祈り求めます。「私たちが神の言葉を後回しにして、食卓の事に仕えるのは良くありません。そこで兄弟たち。あなたがたの中から御霊と知恵に満ちた評判の良い人たちを七人選びなさい。」

そして彼らは、「信仰と聖霊に満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、そしてアンティオキアの改宗者ニコラオを選び」ます。彼らの名前は全員がギリシャ名で、ヘレニストです。この七人の執事たちが、エルサレム教会の実務を行なうこととなります。

すると再び教会は御霊によって一致団結します。この執事の働きにより、教会内に愛が満ち溢れたのです。まさに主イエスが言われたように。「互いに愛し合いなさい。互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたが私の弟子である事を、すべての人が認めるようになります。」と。

この預言通りに、神の言葉は益々広まり、エルサレムで弟子の数が非常に増え、そして何と、祭司たちが大勢、次々と信仰に入ったのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は11月8日(日)教会において行ないます。聖書勉強と祈り会は、11月4日(水)に、各家庭において行ないます。